

## 研修プログラム：小中学生の日本語教育・指導のためのオンライン研修

### 「幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育」

#### 第3回 アイデンティティと関係づくりを支える ～ことばの教育実践を通じて～

#### 1 研修のねらい —3回の研修を通じて

多様な言語的文化的背景をもつ子どものことばの教育では、心身の成長発達や子どもたちを取り巻く環境をふまえながら、来日初期から子どもたちが自分らしく、もてる力を十全に伸ばしながら成長するための教育を実現することが重要です。本研修は、初めて日本語指導を担当することになった教師や支援活動を始めた支援者を主な受講者（対象）として構成してあります。ねらいとして、幼・小・中・高の各教育段階で子どもの発達の状況に応じた教育内容・方法について学び、長期的な視点で校種間の学びの連続性を保障する教育・支援について知り、日本語教育・指導を実施するための具体的なイメージをつくることを目指します。具体的には、学校でのスムーズな受け入れとその体制づくり、文化的な適応や地域支援との関わり、初期段階のコミュニケーションから教科学習、そして自己実現のための日本語の力の育成を目指す日本語教育・指導を取り上げます。事前課題である、動画視聴と講義を通じて、その考え方について知り、実践事例の報告により実施方法について理解を深めます。さらに、ワークショップ型の活動を通して、明日からの指導・支援に生かせるよう、理解を実践のアイデアとして具体化します。3回のオンライン研修のテーマは以下の通りです。

#### <第1～3回研修のテーマ>

回	テーマ
第1回	子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ～初期支援と活動のアイデア～
第2回	探究する力・自律的に学ぶ力を高める日本語と教科の統合学習
第3回	アイデンティティと関係づくりを支える ～ことばの教育実践を通じて～

なお、参加にあたっては、本ユニットが作成した動画（参加者限定公開）の事前視聴による事前学習を課します。

#### 2 第3回のプログラム

##### 「アイデンティティと関係づくりを支える ～ことばの教育実践を通じて～」

##### (1) 概要

時間	150分（2時間30分）
主たる受講者（対象）	「今年、初めて」、「まだ、経験は数年」という日本語指導・支援に携わる学校教員・支援員・支援者の方
テーマ	「アイデンティティと関係づくりを支える ～ことばの教育実践を通じて～」

ねらいとする 資質・能力*	<p>&lt;捉える力&gt;          イ 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。          ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化と共に展望することができる。</p> <p>&lt;育む力&gt;          タ 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。          チ 子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の子どもの学びに結びつけることができる。</p>
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループワーク 持ち寄った自身の言語ポートレートを共有し、研修内容についての学びの準備をする。</li> <li>2 事例共有と講義 ことばとアイデンティティの関係性についての理解を深める。</li> <li>3 事例共有と講義 アイデンティティと関係作りを支える教員のあり方について考えるための視点を得る。</li> <li>4 グループワーク 講師のお話から、ことばの教育実践に携わる自身のあり方についてふり返る。</li> </ol>
事前課題	<p>参加に当たっては、事前に次の研修用動画の視聴を求める。本研修は、以下を視聴済みであることを前提として構成してある。</p> <p>東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット          (2025)『初めて教える人のための 田中先生と学ぶ子どもの日本語指導』          講座6 未来を拓く教育 ―子どものアイデンティティと教師の成長―          パート1 子どものアイデンティティと学習 アイデンティティ          パート2 子どものアイデンティティと学習 青山先生インタビュー（インタビュー映像）</p>

※公益社団法人日本語教育学会（2020）『文部科学省委託事業（2017-2019年度）「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』の「豆の木モデル」にもとづく（ウェブサイト [URL:https://mo-mo-pro.com/report](https://mo-mo-pro.com/report)）

## (2) 実施計画

展開	具体的な内容・活動	利用した資料等
1 説明「研修テーマ、趣旨、目標」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本研修の趣旨</li> <li>・ねらいとする資質・能力</li> <li>・研修終了後の振り返りの実施</li> </ul>	研修趣旨のスライド資料 齋藤（2022）／日本語教育学会（2020）
2 フォームアップ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで言語ポートレートを共有する</li> </ul>	講師作成スライド 参考；Busch, Jardine, & Tjoutuku（2006）／Prasad（2014）
3 講義1「アイデンティティと関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデンティティとは何か（事前視聴した研修動画の確認）</li> <li>他者との関係性／言語の役割</li> </ul>	

<p>を支えることばの教育実践」</p>	<p>／流動性と複数性</p>	<p>参考：Gee（2000）、ノートン（2023）</p>
<p>4 ゲストスピーカー（幼少期に来日）のライフストーリー      ①ゲストの講話      ②質疑応答</p>	<p>・子どものころ      ・進路の選択とキャリア      ・社会人としての今の暮らし</p>	<p>事例報告者作成スライド（「(3)資料」では2025年度研修で招いたゲストの資料を紹介する。）</p>
<p>5 講義2「言語学習とアイデンティティ—幼児期から青年期までの学びをつなぐために—」</p>	<p>・アイデンティティと日本語学習を結びつけるための視点      関係性を広げる      ライフコースを考える      資源を活かす      エージェンシーを育む      市民性を育む      場をつくる</p>	<p>参考文献：      Cummins &amp; Early（2011）／García &amp; Li（2014）／文部科学省（2023）／米本（2021）／Allport（1954）</p>
<p>6 グループワーク「ゲストスピーカーの講話からことばの教育実践を考える」</p>	<p>グループワーク      ①全体：作業の説明      ②グループ（4人前後）：話し合い      ③全体：グループでの話し合いの共有</p>	<p>&lt;グループによる話し合いの内容&gt;      ・幼少期から青年期において、ことばの教育に関わる者の役割とは何か。      ・自身のことばの教育実践・支援の何をどう変えていこうと思うか。</p>
<p>7 振り返り</p>	<p>3回の研修内容をふり返る      アンケート記入      ・満足度      ・今後の活用アイデア      ・資質・能力の向上の有無</p>	

参考文献・資料

- ・齋藤ひろみ（2022）「外国人の子どもを取り巻く問題」齋藤ひろみ編著『外国人の子どもへの学習支援』金子書房
- ・日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』<https://mo-mo-pro.com/report>
- ・ボニー・ノートン（2013/2023）『アイデンティティと言語学習—ジェンダー・エスニシティ・教育をめぐる広がる地平—』（中山亜紀子・福永淳・米本和弘訳）明石書店
- ・文部科学省（2023）「教育振興基本計画」[https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt\\_soseisk02-100000597\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_soseisk02-100000597_01.pdf)
- ・米本和弘（2021）「「国＝文化＝人」を問い直す試み—小学生と留学生の交流活動を事例として—」『複言語・多言語教育研究』8, 183-193
- ・Allport, G. W. (1954). *The nature of prejudice*. Addison-Wesley.
- ・Busch, B., Jardine, A., & Tjoutuku, A. (2006). *Language Biographies for Multilingual Learning*. PRAESA.

- Cummins, J., & Early, M. (2011). *Identity texts: The collaborative creation of power in multilingual schools*. Trentham Books
- Garcia, O., & Li, W. (2014). *Translanguaging: Language, bilingualism and education*. Palgrave Macmillan.
- Gee, J. P. (2000). Identity as an analytic lens for research in education. *Review of Research in Education*, 25, 99-125.
- Prasad, G. L. (2014). Portraits of plurilingualism in a French international school in Toronto: Exploring the role of visual methods to access students' representations of their linguistically diverse identities. *Canadian Journal of Applied Linguistics*, 17(1), 51-77.

#### 4 資料（URL にアクセスすれば、ダウンロードできます）

- ① 趣旨説明・講義資料 [米本和弘 東京学芸大学](#)
- ② 事例報告（参考）：本ユニットによる 2025 年度研修でご報告いただいた資料  
2025 年度研修では、現在学校教員として、多様な言語的文化的背景を持つ子どもの教育に関心を持ち、実践している長島ヒデキさんを招いた。  
[岐阜大学教育学部附属小中学校 長島ヒデキさんの資料](#)
- ③ 動画 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット（2025）『初めて教える人のための 田中先生と学ぶ子どもの日本語指導』

#### **本プログラム・資料の利用について**

教育・研修を目的とした利用に限ります。

資料としてご利用を希望する場合は、コンテンツの出典として「利用する資料等の作成者・執筆者」「利用する資料等が作成・公開された事業名」「コンテンツが示されているウェブサイトの URL」を明記して利用してください。

部分的な切り取りや加工をして利用することは禁じます。